

科目名	コンピュータ基礎				
担当教員	片所 大輔	実務授業の有無	○		
対象学科	情報・ITビジネス大学併修	対象学年	1	開講時期	通年
必修・選択	必修	授業形態	対面と授業の併用	時間数	30時間
授業概要、目的、授業の進め方	コンピュータに関する基礎理論を理解する。				
学習目標 (到達目標)	2進数をはじめとした数値表現を理解し、計算できる。				
テキスト・教材・参考 図書・その他資料	ウイネット、その他配付資料				
	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考			
1	コンピュータの基礎知識	指定教科書P1～P16			
2	数値の表現	指定教科書P17～P50			
3					
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					
11					
12					
13					
14					
15					
	評価方法・成績評価基準	準備学習の具体的な内容			
	前期:筆記試験90%、学習意欲10% 後期:筆記試験90%、学習意欲10% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(60点以上)・C(40点以上)・D(39点以下)とする。	コンピュータを構成する基礎理論について学習する。 「基本情報技術者試験」の基礎学習でもあるため、復習を欠かさず理解を深めるよう心がけること。			
実務経験教員の経歴	エンジニアとして開発現場に5年以上関わっていた				

科目名	ハードウェア				
担当教員	杉浦 勇一	実務授業の有無	○		
対象学科	情報・ITビジネス大学併修	対象学年	1	開講時期	通年
必修・選択	必修	授業形態	対面と授業の併用	時間数	25時間
授業概要、目的、授業の進め方	コンピュータを構成するハードウェア要素を理解する。				
学習目標 (到達目標)	コンピュータを構成するハードウェアを理解できる。				
テキスト・教材・参考 図書・その他資料	ウイネット、その他配付資料				
	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考			
1	ハードウェア	指定教科書P51～P88			
2	システム構成要素	指定教科書P89～P122			
3					
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					
11					
12					
13					
14					
15					
	評価方法・成績評価基準	準備学習の具体的な内容			
	前期:筆記試験90%、学習意欲10% 後期:筆記試験90%、学習意欲10% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(60点以上)・C(40点以上)・D(39点以下)とする。	コンピュータを構成するハードウェアについて学習する。 「基本情報技術者試験」の基礎学習でもあるため、復習を欠かさず理解を深めるよう心がけること。			
実務経験教員の経歴	システムエンジニアとして開発現場に10年以上関わっていた				

科目名	ソフトウェア				
担当教員	片所 大輔	実務授業の有無	○		
対象学科	情報・ITビジネス大学併修	対象学年	1	開講時期	通年
必修・選択	必修	授業形態	対面と授業の併用	時間数	25時間
授業概要、目的、授業の進め方	コンピュータを構成するソフトウェア要素を理解する。				
学習目標 (到達目標)	OSやファイルシステムなどソフトウェアを理解できる。				
テキスト・教材・参考 図書・その他資料	ウイネット、その他配付資料				
	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考			
1	ソフトウェア	指定教科書P124～P145			
2	マルチメディア	指定教科書P146～P153			
3	AI(人工知能)	指定教科書P154～P163			
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					
11					
12					
13					
14					
15					
	評価方法・成績評価基準	準備学習の具体的な内容			
	前期:筆記試験90%、学習意欲10% 後期:筆記試験90%、学習意欲10% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(60点以上)・C(40点以上)・D(39点以下)とする。	コンピュータを構成するソフトウェアについて学習する。 「基本情報技術者試験」の基礎学習でもあるため、復習を欠かさず理解を深めるよう心がけること。			
実務経験教員の経歴	エンジニアとして開発現場に5年以上係わっていた				

科目名						システム開発マネジメント					
担当教員		小田原 貴			実務授業の有無		○				
対象学科		情報・ITビジネス大学併修		対象学年		1		開講時期		前期	
必修・選択		必修		授業形態		対面と授業の併用		時間数		40時間	
授業概要、目的、授業の進め方		ソフトウェアの開発手法に関する知識を理解する。									
学習目標 (到達目標)		ソフトウェアの開発手法を理解できる。									
テキスト・教材・参考図書・その他資料		ウイネット、その他配付資料									
授業項目、内容						学習方法・準備学習・備考					
1		システム開発とマネジメント				指定教科書P1～P95					
2		サービスマネジメントとシステム戦略				指定教科書P96～P125					
3											
4											
5											
6											
7											
8											
9											
10											
11											
12											
13											
14											
15											
評価方法・成績評価基準						準備学習の具体的な内容					
前期:筆記試験90%、学習意欲10%						ソフトウェアの開発手法について学習する。 「基本情報技術者試験」の基礎学習でもあるため、復習を欠かさず理解を深めるよう心がけること。					
成績評価基準は、A(80点以上)・B(60点以上)・C(40点以上)・D(39点以下)とする。											
実務経験教員の経歴						システムエンジニアとして起業。長年現場に携わってきた。					

上越公務員・情報ビジネス専門学校 シラバス

科目名	経営戦略				
担当教員	小田原 貴		実務授業の有無	○	
対象学科	情報・ITビジネス大学併修	対象学年	1	開講時期	前期
必修・選択	必修	授業形態	対面と授業の併用	時間数	30時間
授業概要、目的、授業の進め方	経営戦略に関する知識を理解する。				
学習目標 (到達目標)	経営戦略に関わる分析手法を理解できる。				
テキスト・教材・参考 図書・その他資料	ウイネット、その他配付資料 「経営戦略全史」(ディスカバー21刊)				
	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	企業と経営戦略		指定教科書P126～P191		
2					
3					
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					
11					
12					
13					
14					
15					
評価方法・成績評価基準			準備学習の具体的な内容		
前期：筆記試験90%、学習意欲10% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(60点以上)・C(40点以上)・D(39点以下)とする。			企業を運営するうえでの戦略手法について学習する。 「基本情報技術者試験」の基礎学習でもあるため、復習を欠かさず理解を深めるよう心がけること。		
実務経験教員の経歴		システムエンジニアとして起業。長年現場に携わってきた。			

科目名 企業会計と法務									
担当教員		小田原 貴		実務授業の有無		○			
対象学科		情報・ITビジネス大学併修	対象学年		1	開講時期		前期	
必修・選択		必修		授業形態		対面と授業の併用	時間数		30時間
授業概要、目的、授業の進め方		企業と法務に関する知識を理解する。							
学習目標 (到達目標)		企業の経営に関わる諸法務を理解できる。							
テキスト・教材・参考図書・その他資料		ウイネット、その他配付資料							
授業項目、内容				学習方法・準備学習・備考					
1	企業会計			指定教科書P192～P199					
2	法務と標準化			指定教科書P200～P216					
3									
4									
5									
6									
7									
8									
9									
10									
11									
12									
13									
14									
15									
評価方法・成績評価基準				準備学習の具体的な内容					
前期：筆記試験90%、学習意欲10% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(60点以上)・C(40点以上)・D(39点以下)とする。				企業の経営に関わる諸法務について学習する。 「基本情報技術者試験」の基礎学習でもあるため、復習を欠かさず理解を深めるよう心がけること。					
実務経験教員の経歴		システムエンジニアとして起業。長年現場に携わってきた。							

科目名		ビジネスマナー I			
担当教員	大竹 徳至	実務授業の有無	×		
対象学科	情報・ITビジネス大学併修	対象学年	1	開講時期	後期
必修・選択	必修	授業形態	対面と授業の併用	時間数	30時間
授業概要、目的、授業の進め方	現在社会に生きる一人の大人として必要な常識や心構えを学ぶ。 社会の中で企業がどのような位置づけにあるか、そこで働く個々人に何が求められているかを理解する。 テキストに沿って座学形式による授業を行う。				
学習目標 (到達目標)	全国経理教育協会主催 社会人常識マナー検定合格を目標とする。				
テキスト・教材・参考 図書・その他資料	全国経理教育協会 公式テキスト				
	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考			
1	社会常識	指定教科書P13～P100			
2	コミュニケーション	指定教科書P101～P174			
3	ビジネスマナー	指定教科書P175～P264			
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					
11					
12					
13					
14					
15					
16					
17					
18					
評価方法・成績評価基準		準備学習の具体的な内容			
前期：筆記試験70%、学習意欲30% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(60点以上)・C(40点以上)・D(39点以下)とする。		翌週の講義箇所を読んだうえで授業に臨むこと。 指示された課題を確実に提出する。			
実務経験教員の経歴					

科目名		就職実務 I			
担当教員	大竹 徳至		実務授業の有無	×	
対象学科	情報・ITビジネス大学併修	対象学年	1	開講時期	後期
必修・選択	必修	授業形態	対面と授業の併用	時間数	15時間
授業概要、目的、授業の進め方	2年次にスムーズな就職活動を行うために就職活動に関する指導を行う。就職活動の流れ、履歴書の書き方、面接対応など、実習を交えつつ進める。				
学習目標 (到達目標)	就職活動の流れを理解する。 履歴書の書き方がわかる。面接の質問対応とマナーがわかる。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	適宜をプリント配布				
	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	就職活動の流れ		適宜をプリント配布		
2	自己分析・他己分析		適宜をプリント配布		
3	説明会・企業訪問のマナー		適宜をプリント配布		
4	履歴書の書き方		適宜をプリント配布		
5	面接質問・面接マナー		適宜をプリント配布		
6	面接練習		適宜をプリント配布		
7	就職試験		適宜をプリント配布		
8					
9					
10					
11					
12					
13					
14					
15					
16					
17					
18					
評価方法・成績評価基準			準備学習の具体的な内容		
後期：筆記試験70%、学習意欲30% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(60点以上)・C(40点以上)・D(39点以下)とする。			翌週の講義箇所を読んだうえで授業に臨むこと。 指示された課題を確実に提出する。		
実務経験教員の経歴					

科目名		国家試験対策 I			
担当教員	桑原 峻介		実務授業の有無	○	
対象学科	情報・ITビジネス大学併修	対象学年	1	開講時期	前期
必修・選択	必修	授業形態	対面と授業の併用	時間数	150時間
授業概要、目的、授業の進め方	基本情報技術者試験をはじめとした情報処理系国家資格の取得を目指した、試験対策授業。 テキスト、過去問、模擬試験等を用いて授業形式で進める。				
学習目標 (到達目標)	目標国家資格の合格(基本情報技術者試験、応用情報技術者試験、情報セキュリティマネジメント 等)				
テキスト・教材・参考 図書・その他資料	インフォテック・サーブ、TAC、その他配付資料				
授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考			
1	過去問題集	1問単位で実施、解説を繰り返す。			
2	過去試験	過去に開催された試験を実際の試験時間で実施。			
3	模擬試験	近年の傾向をくみ取った模擬試験を開催。			
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					
11					
12					
13					
14					
15					
評価方法・成績評価基準		準備学習の具体的な内容			
後期:筆記試験90%、学習意欲10% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(60点以上)・C(40点以上)・D(39点以下)とする。		前期で学んだ知識が一通り必要になる。 夏季休暇に課題を設け復習を行う。 対策期間中は放課後の教室を開放し、予習・復習の自主学習を促す。			
実務経験教員の経歴		ゲーム会社で7年間ゲームプログラマとして勤務。			

科目名					
アルゴリズム					
担当教員	小田原 貴		実務授業の有無	○	
対象学科	情報・ITビジネス大学併修	対象学年	1	開講時期	前期
必修・選択	必修	授業形態	対面と授業の併用	時間数	50時間
授業概要、目的、授業の進め方	1. アルゴリズムとフローチャートに関する知識を理解する。 2. 疑似言語に関する知識を理解する。				
学習目標 (到達目標)	1. アルゴリズムの記法を理解できる。2. 探索と整列処理の方法を理解できる。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	「アルゴリズム図鑑」(翔泳社)、その他配付資料				
	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	アルゴリズムの基本		指定教科書P1～P11		
2	流れ図		指定教科書P12～P35		
3	疑似言語		指定教科書P36～P49		
4	計算のアルゴリズム		指定教科書P50～P69		
5	配列の操作		指定教科書P70～P89		
6	探索のアルゴリズム		指定教科書P90～P113		
7	整列のアルゴリズム		指定教科書P114～P155		
8					
9					
10					
11					
12					
13					
14					
15					
評価方法・成績評価基準			準備学習の具体的な内容		
前期:筆記試験90%、学習意欲10% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(60点以上)・C(40点以上)・D(39点以下)とする。			アルゴリズムについて学習する。 「基本情報技術者試験」の基礎学習でもあるため、復習を欠かさず理解を深めるよう心がけること。		
実務経験教員の経歴		システムエンジニアとして起業。長年現場に携わってきた。			

科目名					
データ構造					
担当教員	片所 大輔		実務授業の有無	○	
対象学科	情報・ITビジネス大学併修	対象学年	1	開講時期	前期
必修・選択	必修	授業形態	対面と授業の併用	時間数	40時間
授業概要、目的、授業の進め方	アルゴリズムとデータ構造に関する知識を理解する。				
学習目標 (到達目標)	アルゴリズムで使用されるデータ構造を理解できる。				
テキスト・教材・参考 図書・その他資料	ウイネット、その他配付資料				
	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	データ構造		指定教科書P156～P209		
2	実践アルゴリズム		指定教科書P210～P241		
3					
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					
11					
12					
13					
14					
15					
評価方法・成績評価基準			準備学習の具体的な内容		
前期:筆記試験90%、学習意欲10%			アルゴリズムとデータ構造について学習する。		
成績評価基準は、A(80点以上)・B(60点以上)・C(40点以上)・D(39点以下)とする。			「基本情報技術者試験」の基礎学習でもあるため、復習を欠かさず理解を深めるよう心がけること。		
実務経験教員の経歴		エンジニアとして開発現場に5年以上関わっていた			

科目名	情報セキュリティ				
担当教員	岩澤 剛		実務授業の有無	○	
対象学科	情報・ITビジネス大学併修	対象学年	1	開講時期	前期
必修・選択	必修	授業形態	対面と授業の併用		時間数 25時間
授業概要、目的、授業の進め方	情報セキュリティとリスクに関する知識を理解する。				
学習目標 (到達目標)	情報セキュリティとリスクに関する知識を理解できる。				
テキスト・教材・参考 図書・その他資料	ウイネット、その他配付資料				
	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	情報セキュリティ		指定教科書P124～P137		
2	暗号化技術		指定教科書P138～P151		
3	セキュリティリスクと管理		指定教科書P152～P172		
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					
11					
12					
13					
14					
15					
評価方法・成績評価基準			準備学習の具体的な内容		
<p>前期：筆記試験90%、学習意欲10%</p> <p>成績評価基準は、A(80点以上)・B(60点以上)・C(40点以上)・D(39点以下)とする。</p>			<p>情報セキュリティとリスクについて学習する。 「基本情報技術者試験」の基礎学習でもあるため、復習を欠かさず理解を深めるよう心がけること。</p>		
実務経験教員の経歴		システムエンジニアとして開発現場に6年間関わっていた			

科目名		Java			
担当教員	小田原 貴		実務授業の有無	○	
対象学科	情報・ITビジネス大学併修	対象学年	1	開講時期	通年
必修・選択	必修	授業形態	対面と授業の併用	時間数	140時間
授業概要、目的、授業の進め方	1. Javaによるプログラミングスキルを修得する。 2. Javaプログラミングの仕様、言語のルールを理解する。				
学習目標 (到達目標)	1. Java言語を用いて指示された要件を満たすアプリケーションを作成できる。2. Javaプログラミングにおけるルールを把握し、ルールに則ったコーディングができる。3. プログラムのコードを読み、どのような挙動をするアプリケーションなのか理解できる。4. 自らアプリケーションを設計し、作成ができる。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	インフォテックサーブ カットシステム、その他配付資料				
授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考			
1	プログラムの基礎	PCを利用した実習 指定教科書P1～P111			
2	オブジェクト指向プログラミング1(クラス定義)	PCを利用した実習 指定教科書P112～P181			
3	オブジェクト指向プログラミング2(クラスの拡張)	PCを利用した実習 指定教科書P182～P239			
4	検定対策1	検定試験対策を通して、プログラミングルールへの理解を深める。			
5	GUIプログラミング1(ウインドウとコントロール)	PCを利用した実習 指定教科書P1～P154			
6	GUIプログラミング2(イベントとグラフィック)	PCを利用した実習 指定教科書P155～P220			
7	検定対策2	より高度な検定試験対策を通して、プログラミングルールへの理解を深める。			
8					
9					
10					
11					
12					
13					
14					
15					
評価方法・成績評価基準		準備学習の具体的な内容			
前期:筆記試験50%、実技試験40%、学習意欲10% 後期:筆記試験50%、実技試験40%、学習意欲10% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(60点以上)・C(40点以上)・D(39点以下)とする。		Javaプログラミングに対して、実習による「作る力」と検定対策を通じた「読む・考える力」を養う。 多くの学生が初めて触れるプログラミング言語になるため、基礎部分に重きを置き、繰り返しの学習を心がけること。			
実務経験教員の経歴		システムエンジニアとして起業。長年現場に携わってきた。			

科目名						データベース					
担当教員		片所 大輔			実務授業の有無		○				
対象学科		情報・ITビジネス大学併修		対象学年		1		開講時期		前期	
必修・選択		必修		授業形態		対面と授業の併用		時間数		35時間	
授業概要、目的、授業の進め方		データベースに関する知識を理解する。									
学習目標 (到達目標)		データベースに関する知識と操作を理解できる。									
テキスト・教材・参考図書・その他資料		ウイネット、その他配付資料									
		授業項目、内容					学習方法・準備学習・備考				
1		データベースの基礎					指定教科書P1～P19				
2		SQL文					指定教科書P20～P50				
3		データベース管理システム					指定教科書P51～P71				
4											
5											
6											
7											
8											
9											
10											
11											
12											
13											
14											
15											
		評価方法・成績評価基準					準備学習の具体的な内容				
		前期:筆記試験90%、学習意欲10% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(60点以上)・C(40点以上)・D(39点以下)とする。					データベースの知識と操作を学習する。 「基本情報技術者試験」の基礎学習でもあるため、復習を欠かさず理解を深めるよう心がけること。				
実務経験教員の経歴		エンジニアとして開発現場に5年以上関わっていた									

科目名					
ネットワーク					
担当教員	岩澤 剛		実務授業の有無	○	
対象学科	情報・ITビジネス大学併修	対象学年	1	開講時期	前期
必修・選択	必修	授業形態	対面と授業の併用	時間数	25時間
授業概要、目的、授業の進め方	ネットワークに関する知識を理解する。				
学習目標 (到達目標)	ネットワークに関する知識を理解できる。				
テキスト・教材・参考 図書・その他資料	ウイネット、その他配付資料				
	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	ネットワーク方式		指定教科書P72～P82		
2	IPアドレス		指定教科書P83～P98		
3	ネットワーク管理		指定教科書P99～P123		
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					
11					
12					
13					
14					
15					
評価方法・成績評価基準			準備学習の具体的な内容		
前期:筆記試験90%、学習意欲10% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(60点以上)・C(40点以上)・D(39点以下)とする。			ネットワークについて学習する。 「基本情報技術者試験」の基礎学習でもあるため、復習を欠かさず理解を深めるよう心がけること。		
実務経験教員の経歴		システムエンジニアとして開発現場に6年間関わっていた			

科目名	AI基礎				
担当教員	小田原 貴		実務授業の有無	○	
対象学科	情報・ITビジネス大学併修	対象学年	1	開講時期	後期
必修・選択	必修	授業形態	対面と授業の併用	時間数	45時間
授業概要、目的、授業の進め方	様々な分野で活用されているAI技術についてより深く学び、その利用法を身につける。				
学習目標(到達目標)	AIの利活用について自ら考えることができる。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	「AIのしくみと活用がしっかりわかる教科書」(技術評論社)				
	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	AIとは		教科書P12～35		
2	AIの基礎知識		教科書P36～73		
3	自然言語処理の手法とモデル		教科書P74～129		
4	GANを中心とした生成モデル		教科書P130～155		
5	画像認識の手法とモデル		教科書P156～193		
6	テーブルデータの機械学習アルゴリズム		教科書P194～247		
7					
8					
9					
10					
11					
12					
13					
14					
15					
評価方法・成績評価基準		準備学習の具体的な内容			
前期:実技試験90%、学習意欲10% 後期:実技試験90%、学習意欲10%		授業終了時に示す課題について、次回授業までに作成しておくこと。			
成績評価基準は、A(80点以上)・B(60点以上)・C(40点以上)・D(39点以下)とする。					
実務経験教員の経歴		システムエンジニアとして起業。長年現場に携わってきた。			

科目名		OA実習			
担当教員	大竹 徳至	実務授業の有無	×		
対象学科	情報・ITビジネス大学併修	対象学年	1	開講時期	後期
必修・選択	必修	授業形態	対面と授業の併用	時間数	45時間
授業概要、目的、授業の進め方	Microsoft Office Wordの基本的操作とMOS検定についての学習する。テキストをベースとした実習形式で授業を進める。				
学習目標 (到達目標)	Microsoft Office Specialist試験Wordの合格を目標とする。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	FOM出版、その他配付資料				
	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考			
1	文書の作成と管理	指定教科書P26～P91			
2	文字、段落、セクションの書式設定	指定教科書P92～P133			
3	表やリストの作成	指定教科書P134～P161			
4	参考資料の適用	指定教科書P162～P187			
5	オブジェクトの挿入と書式設定	指定教科書P188～P215			
6					
7					
8					
9					
10					
11					
12					
13					
14					
15					
評価方法・成績評価基準		準備学習の具体的な内容			
前期:実技試験90%、学習意欲10% 後期:実技試験90%、学習意欲10% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(60点以上)・C(40点以上)・D(39点以下)とする。		授業終了時に示す課題について、次回授業までに作成しておくこと。			
実務経験教員の経歴					

科目名		経営思想			
担当教員	大竹 徳至	実務授業の有無	×		
対象学科	情報・ITビジネス大学併修	対象学年	1	開講時期	後期
必修・選択	必修	授業形態	対面と授業の併用	時間数	15時間
授業概要、目的、授業の進め方	経営学の理論を学び、経営学の歴史の流れを概観することで、今後さらに経営について学ぶための基礎素養を身につける。				
学習目標 (到達目標)	経営思想の流れをつかむことで、経営の理論的側面を強化するとともに、それをもとに実際の企業を分析できる能力を身につける。				
テキスト・教材・参考 図書・その他資料	「経営戦略全史」(ディスカバー21刊)				
	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	近代マネジメントの源流と創成		テキスト第1章、2章		
2	ポジショニング派とケイパビリティ		テキスト第3章、4章、5章		
3	221世紀の経営環境と戦略緒論、アダプティブ戦略		テキスト第6章、7章		
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					
11					
12					
13					
14					
15					
評価方法・成績評価基準		準備学習の具体的な内容			
前期:実技試験90%、学習意欲10% 後期:実技試験90%、学習意欲10% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(60点以上)・C(40点以上)・D(39点以下)とする。		授業終了時に示す課題について、次回授業までに作成しておくこと。			
実務経験教員の経歴					

科目名						コミュニケーション論					
担当教員		大竹 徳至				実務授業の有無		×			
対象学科		情報・ITビジネス大学併修		対象学年		1		開講時期		後期	
必修・選択		必修		授業形態		対面と授業の併用		時間数		15時間	
授業概要、目的、授業の進め方		コミュニケーションについて学び、社会においてその力を活かす術を考える。									
学習目標 (到達目標)		コミュニケーション検定初級 合格									
テキスト・教材・参考 図書・その他資料		「コミュニケーション検定初級 公式ガイドブック&問題集」(サーティファイ刊)									
授業項目、内容						学習方法・準備学習・備考					
1	コミュニケーションの持つ力					テキストP2～4					
2	聞く力、話す力					テキストP5～34					
3	コミュニケーション・プラクティス					テキストP36～82					
4											
5											
6											
7											
8											
9											
10											
11											
12											
13											
14											
15											
評価方法・成績評価基準						準備学習の具体的な内容					
前期:実技試験90%、学習意欲10% 後期:実技試験90%、学習意欲10%						授業終了時に示す課題について、次回授業までに作成しておくこと。					
成績評価基準は、A(80点以上)・B(60点以上)・C(40点以上)・D(39点以下)とする。											
実務経験教員の経歴											

科目名						情報分析力					
担当教員		大竹 徳至				実務授業の有無		×			
対象学科		情報・ITビジネス大学併修		対象学年		1		開講時期		前期	
必修・選択		必修		授業形態		対面と授業の併用		時間数		15時間	
授業概要、目的、授業の進め方		身近な情報を分析し、活用する力を身につける。									
学習目標 (到達目標)		情報分析力を高め、コンピュータシステム開発をはじめ、多方面にその能力を活かせる。									
テキスト・教材・参考図書・その他資料		「情報分析力を鍛える」(産業能率大学刊)									
授業項目、内容						学習方法・準備学習・備考					
1	情報分析の基本					テキストP1～24					
2	定量データ、定性データの分析					テキストP25～94					
3	情報の見方、とらえ方と除法分析の実践					テキストP95～122					
4											
5											
6											
7											
8											
9											
10											
11											
12											
13											
14											
15											
評価方法・成績評価基準						準備学習の具体的な内容					
前期:実技試験90%、学習意欲10% 後期:実技試験90%、学習意欲10%						授業終了時に示す課題について、次回授業までに作成しておくこと。					
成績評価基準は、A(80点以上)・B(60点以上)・C(40点以上)・D(39点以下)とする。											
実務経験教員の経歴											

科目名						特別課外活動 I					
担当教員		大竹 徳至				実務授業の有無		×			
対象学科		情報・ITビジネス大学併修		対象学年		1		開講時期		前期	
必修・選択		必修		授業形態		対面と授業の併用		時間数		30時間	
授業概要、目的、授業の進め方		様々な活動を通して、コミュニケーション能力、自主性、企画力を養う。									
学習目標 (到達目標)		社会に出てから役に立つ様々な力について理解を深める。									
テキスト・教材・参考図書・その他資料		なし									
授業項目、内容						学習方法・準備学習・備考					
1	新入生歓迎会					新たな友人たちと親睦を深め、コミュニケーション力を養う。					
2	大運動会					大人数での活動を通して、協調性を養う。					
3	秋フェス					行事の企画運営を通して企画力を養う。					
4	校内スポーツ大会					行事の企画運営を通して企画力を養う。					
5	研修講演会					各分野の現場で活動する方のお話を伺い、自らの将来について考える。					
6											
7											
8											
9											
10											
11											
12											
13											
14											
15											
評価方法・成績評価基準						準備学習の具体的な内容					
前期:実技試験90%、学習意欲10% 後期:実技試験90%、学習意欲10%						授業終了時に示す課題について、次回授業までに作成しておくこと。					
成績評価基準は、A(80点以上)・B(60点以上)・C(40点以上)・D(39点以下)とする。											
実務経験教員の経歴											

科目名						OA実習Ⅱ					
担当教員		大竹 徳至				実務授業の有無		×			
対象学科		情報・ITビジネス大学併修		対象学年		2		開講時期		通年	
必修・選択		必修		授業形態		対面と授業の併用		時間数		75時間	
授業概要、目的、授業の進め方		Microsoft Office Excel、PowerPointの基本的操作とMOS検定についての学習する。テキストをベースとした実習形式で授業を進める。									
学習目標 (到達目標)		Microsoft Office Specialist試験のExcelとPowerPointの合格を目標とする。									
テキスト・教材・参考図書・その他資料		FOM出版、その他配付資料									
授業項目、内容						学習方法・準備学習・備考					
1	ワークシートやブックの作成と管理					指定教科書P26～P103					
2	セルやセル範囲の作成					指定教科書P104～P155					
3	テーブルの作成					指定教科書P156～P177					
4	数式や関数の適用					指定教科書P178～P203					
5	グラフやオブジェクトの作成					指定教科書P204～P251					
6	プレゼンテーションの作成と管理					指定教科書P26～P103					
7	テキスト、図形、画像の挿入と書式設定					指定教科書P104～P153					
8	票、グラフ、SmartArt、メディアの挿入					指定教科書P154～P205					
9	画面切り替えやアニメーションの適用					指定教科書P206～P229					
10	複数のプレゼンテーションの管理					指定教科書P230～P271					
11											
12											
13											
14											
15											
評価方法・成績評価基準						準備学習の具体的な内容					
前期:実技試験90%、学習意欲10% 後期:実技試験90%、学習意欲10% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(60点以上)・C(40点以上)・D(39点以下)とする。						授業終了時に示す課題について、次回授業までに作成しておくこと。					
実務経験教員の経歴											

科目名					
Webデザイン					
担当教員	片所 大輔		実務授業の有無	○	
対象学科	情報・ITビジネス大学併修	対象学年	2	開講時期	前期
必修・選択	必修	授業形態	対面と授業の併用	時間数	70時間
授業概要、目的、授業の進め方	HTML5を用いたWebページの作成技術と知識を実習形式の授業で学ぶ。テキストに沿って実習授業を進める。				
学習目標 (到達目標)	サーティファイ主催のWebクリエイター技術者試験の合格を目標とする。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	「スラスラわかるHTML&CSSのきほん」(SBクリエイティブ)、その他配付資料				
	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	Webサイト制作を始める前に		指定教科書P1～20		
2	HTMLの基礎		指定教科書P21～30		
3	制作の準備と基本のHTML		指定教科書P31～50		
4	テキストの表示		指定教科書P51～86		
5	リンクと画像の挿入		指定教科書P87～112		
6	CSSの基礎		指定教科書P113～130		
7	テキストのスタイル、背景色、ボックスモデル		指定教科書P131～178		
8	スタイルの上書き、フレックスボックス、テーブルの整形		指定教科書P179～210		
9	2ページ目以降のHTMLとグリッドレイアウト		指定教科書P211～240		
10	フォームを使うページの作成		指定教科書P241～270		
11	モバイル端末に対応する		指定教科書P271～296		
12	Webサイトを公開する		指定教科書P297～311		
13					
14					
15					
評価方法・成績評価基準			準備学習の具体的な内容		
前期:筆記試験90%、学習意欲10% 後期:筆記試験90%、学習意欲10% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(60点以上)・C(40点以上)・D(39点以下)とする。			授業終了時に示す課題について、次回授業までに作成しておくこと。		
実務経験教員の経歴		エンジニアとして開発現場に5年以上関わっていた			

科目名						Androidアプリ開発					
担当教員		片所 大輔			実務授業の有無		○				
対象学科		情報・ITビジネス大学併修		対象学年		2		開講時期		通年	
必修・選択		必修		授業形態		対面と授業の併用		時間数		90時間	
授業概要、目的、授業の進め方		1. Android SDKを使用した、スマートフォンアプリ開発の方法を理解する。 2. 自ら考えたアプリケーションの設計、開発ができる。									
学習目標 (到達目標)		1. 指示された要件を満たすスマートフォンアプリの開発ができる。2.スマートフォン向けアプリを自ら企画・設計し、仕様に応じた開発ができる。3.作成したアプリケーションをマーケットに公開することができる。									
テキスト・教材・参考図書・その他資料		翔泳社、その他配付資料									
授業項目、内容						学習方法・準備学習・備考					
1	アプリ開発の基礎					PCを利用した実習 指定教科書P1～P54					
2	画面の作り方					PCを利用した実習 指定教科書P55～P84					
3	イベントとリスナ					PCを利用した実習 指定教科書P85～P102					
4	画面遷移					PCを利用した実習 指定教科書P149～P174					
5	その他の画面部品、諸機能					PCを利用した実習 指定教科書P103～P120、配布資料					
6	開発演習					PCを利用した実習					
7											
8											
9											
10											
11											
12											
13											
14											
15											
評価方法・成績評価基準						準備学習の具体的な内容					
後期：筆記試験50%、実技試験40%、学習意欲10% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(60点以上)・C(40点以上)・D(39点以下)とする。						1年次に学習したJavaプログラムを発展させ、スマートフォン開発の実習を行う。 学生たちにとって身近なアプリケーションとなるため、作りたいものを積極的にイメージする姿勢が大切となる。					
実務経験教員の経歴						エンジニアとして開発現場に5年以上関わっていた					

科目名						就職実務Ⅱ						
担当教員		立島 信貴			実務授業の有無		×					
対象学科		情報・ITビジネス大学併修		対象学年		2		開講時期		通年		
必修・選択		必修			授業形態		対面授業		時間数		45時間	
授業概要、目的、授業の進め方		社会・組織の一員として必要不可欠な社会常識を理解し、初歩的な仕事を処理する為に必要な知識やビジネスマナーを学ぶ。ロールプレイングやグループワークが中心。										
学習目標 (到達目標)		実社会で必要なスキルや社会に出るための心構えを身に付ける。										
テキスト・教材・参考図書・その他資料												
		授業項目、内容					学習方法・準備学習・備考					
1	業種と職種											
2	求人票の見かた											
3	コミュニケーションとは？											
4	企業研究の方法とポイント											
5	履歴書の書き方											
6	履歴書の書き方											
7	面接練習											
8	面接練習											
9	面接練習											
10	企業へのアポイントの取り方											
11	電話対応											
12	名刺交換											
13	一般常識											
14	一般常識											
評価方法・成績評価基準						準備学習の具体的な内容						
前期：筆記試験50%、実技試験40%、学習意欲10% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(60点以上)・C(40点以上)・D(39点以下)とする。						翌週の講義箇所を読んだうえで授業に臨むこと。 指示された課題を確実に提出する。						
実務経験教員の経歴												

科目名	国家試験対策Ⅱ				
担当教員	桑原 峻介	実務授業の有無	○		
対象学科	情報・ITビジネス大学併修	対象学年	2	開講時期	前期
必修・選択	必修	授業形態	対面と授業の併用	時間数	220時間
授業概要、目的、授業の進め方	<p>基本情報技術者試験をはじめとした情報処理系国家資格の取得を目指した、試験対策授業。秋期開催の試験に向けた対策授業。</p> <p>テキスト、過去問、模擬試験等を用いて授業形式で進める。</p>				
学習目標 (到達目標)	目標国家資格の合格(基本情報技術者試験、応用情報技術者試験、情報セキュリティマネジメント 等)				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	インフォテック・サーブ、TAC、その他配付資料				
	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	過去問題集		1問単位で実施、解説を繰り返す。		
2	過去試験		過去に開催された試験を実際の試験時間で実施。		
3	模擬試験		近年の傾向をくみ取った模擬試験を開催。		
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					
11					
12					
13					
14					
15					
評価方法・成績評価基準		準備学習の具体的な内容			
後期：筆記試験90%、学習意欲10% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(60点以上)・C(40点以上)・D(39点以下)とする。		春期試験の結果を参考に週単位で各自への課題を設ける。 対策期間中は放課後の教室を開放し、予習・復習の自主学習を促す。			
実務経験教員の経歴		ゲーム会社で7年間ゲームプログラマとして勤務。			

科目名	システム設計				
担当教員	小田原 貴	実務授業の有無	○		
対象学科	情報・ITビジネス大学併修	対象学年	2	開講時期	前期
必修・選択	必修	授業形態	対面と授業の併用	時間数	30時間
授業概要、目的、授業の進め方	アプリケーション制作を通してシステム開発に必要な工程と成果物の管理、作成方法を学ぶ。				
学習目標 (到達目標)	1. 指定されたアプリケーションを一連のプロジェクトとして制作する 2. 制作にあたり進捗の管理、成果物の提出を行う。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	配付資料				
	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	企画、設計		チーム内作業		
2	実装		チーム内作業、進捗状況は毎日担当教員に報告		
3	テスト、デバッグ		チーム内作業		
4	発表会		各チーム資料を作成し、プレゼンテーションを行う。		
5					
6					
7					
8					
9					
10					
11					
12					
13					
14					
15					
評価方法・成績評価基準		準備学習の具体的な内容			
前期：成果物50%、進捗管理40%、学習意欲10% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(60点以上)・C(40点以上)・D(39点以下)とする。		本カリキュラムが始まる前に開発に用いるプログラミング言語について復習課題を設ける。			
実務経験教員の経歴		システムエンジニアとして起業。長年現場に携わってきた。			

科目名					
システム開発実習					
担当教員	小田原 貴		実務授業の有無	○	
対象学科	情報・ITビジネス大学併修	対象学年	2	開講時期	後期
必修・選択	必修	授業形態	対面と授業の併用	時間数	40時間
授業概要、目的、授業の進め方	1. 3～5名ほどのチームを組み、複数人でのプログラミング開発実習 2. 自ら考えたアプリケーションの設計、開発ができる。 3. チーム内での進捗管理などコミュニケーション円滑にとりながら実習を進める。				
学習目標 (到達目標)	1. 指示された要件を満たすソフトウェアの開発を目標とする。 2. プログラミングコンテストへの応募を目標とする。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	配付資料				
	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	チーム開発での注意事項、開発の進め方について		スライドを用いて説明		
2	企画、設計		チーム内作業		
3	実装		チーム内作業、進捗状況は毎日担当教員に報告		
4	テスト、デバッグ		チーム内作業		
5	発表会		各チーム資料を作成し、プレゼンテーションを行う。		
6					
7					
8					
9					
10					
11					
12					
13					
14					
15					
評価方法・成績評価基準			準備学習の具体的な内容		
前期：筆記試験50%、実技試験40%、学習意欲10% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(60点以上)・C(40点以上)・D(39点以下)とする。			本カリキュラムが始まる前に開発に用いるプログラミング言語について復習課題を設ける。		
実務経験教員の経歴		システムエンジニアとして起業。長年現場に携わってきた。			

科目名						進級制作					
担当教員		大竹 徳至				実務授業の有無		×			
対象学科		情報・ITビジネス大学併修		対象学年		2		開講時期		後期	
必修・選択		必修		授業形態		対面と授業の併用		時間数		115時間	
授業概要、目的、授業の進め方		1. 個人もしくは2～4名ほどのチームを組み、システム科卒業研究発表会に合わせて研究開発を行う。 2. チーム内での進捗管理などコミュニケーション円滑にとりながら実習を進める。 3. 内定先企業に必要な技術に関連した研究開発を推奨する。									
学習目標 (到達目標)		1. 指示された要件を満たすソフトウェアの開発を目標とする。									
テキスト・教材・参考図書・その他資料		配付資料									
授業項目、内容						学習方法・準備学習・備考					
1		企画、設計				チーム内作業					
2		実装				チーム内作業、進捗状況は毎日担当教員に報告					
3		テスト、デバッグ				チーム内作業					
4		発表会				各チーム資料を作成し、プレゼンテーションを行う。					
5											
6											
7											
8											
9											
10											
11											
12											
13											
14											
15											
評価方法・成績評価基準						準備学習の具体的な内容					
後期: 成果物評価50%、プレゼン評価40%、学習意欲10% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(60点以上)・C(40点以上)・D(39点以下)とする。						本カリキュラムが始まる前に開発に用いるプログラミング言語について復習課題を設ける。					
実務経験教員の経歴						システムエンジニアとして開発現場に4年間関わっていた					

科目名		Java応用			
担当教員	小田原 貴	実務授業の有無	○		
対象学科	情報・ITビジネス大学併修	対象学年	2	開講時期	後期
必修・選択	必修	授業形態	対面と授業の併用	時間数	45時間
授業概要、目的、授業の進め方	<p>Javaプログラミング言語の資格取得を目指す。 「サーティファイ Javaプログラミング能力認定試験」または 「Oracle Java Bronze」の取得を目指す。</p> <p>テキスト、過去問を中心に実際にプログラムを書きながら授業を進める。</p>				
学習目標 (到達目標)	「サーティファイ Javaプログラミング能力認定試験」または 「Oracle Java Bronze」の取得。				
テキスト・教材・参考 図書・その他資料	ウイネット、その他配付資料				
	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	過去問題集		1問単位で実施、解説を繰り返す。		
2	過去試験		過去に開催された試験を実際の試験時間で実施。		
3	模擬試験		近年の傾向をくみ取った模擬試験を開催。		
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					
11					
12					
13					
14					
15					
評価方法・成績評価基準		準備学習の具体的な内容			
前期：筆記試験80%、検定結果10%、学習意欲10% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(60点以上)・C(40点以上)・D(39点以下)とする。		秋期試験の結果を参考に週単位で各自への課題を設ける。 対策期間中は放課後の教室を開放し、予習・復習の自主学習を促す。			
実務経験教員の経歴		システムエンジニアとして起業。長年現場に携わってきた。			

科目名		プレゼン技法			
担当教員	大竹 徳至	実務授業の有無	×		
対象学科	情報・ITビジネス大学併修	対象学年	2	開講時期	後期
必修・選択	必修	授業形態	対面と授業の併用	時間数	20時間
授業概要、目的、授業の進め方	卒業制作発表を目標にして、PowerPointの使い方。プレゼン資料の作り方、発表時の注意点を学ぶ。				
学習目標 (到達目標)	PowerPointでプレゼン資料を作成し、発表ができる。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	配付資料				
	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考			
1	PowerPointの使い方	資料配布。PCを使った実技。			
2	プレゼン資料の作り方	資料配布。			
3	プレゼン技法	資料配布。			
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					
11					
12					
13					
14					
15					
評価方法・成績評価基準		準備学習の具体的な内容			
後期：成果物評価50%、プレゼン評価40%、学習意欲10% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(60点以上)・C(40点以上)・D(39点以下)とする。		卒業制作の授業と並行して行う。 発表対象となるアプリケーションを作成すること。			
実務経験教員の経歴					

科目名		経営戦略実践			
担当教員	大竹 徳至		実務授業の有無	×	
対象学科	情報・ITビジネス大学併修	対象学年	2	開講時期	通年
必修・選択	必修	授業形態	対面と授業の併用	時間数	75時間
授業概要、目的、授業の進め方	経営学、経済学、ビジネス心理、マネジメントなどについて幅広く学び、企業経営を戦略的概念に基づいて考える。				
学習目標 (到達目標)	企業の活動実態から、当該企業がどのような論理に基づいて戦略を構築・実行しているか判断できる。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	「仕事の的確な推進と問題解決」(産業能率大学刊)など				
	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	仕事をマネジメントする		テキスト「仕事の的確な推進と問題解決」		
2	経済学		テキスト「入門経済学」		
3	心理学概論		テキスト「心理学への誘い」		
4	企業家に学ぶ経営		テキスト歴史に学ぶ経営学」		
5					
6					
7					
8					
9					
10					
11					
12					
13					
14					
15					
評価方法・成績評価基準		準備学習の具体的な内容			
後期：課題提出90%、学習意欲10% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(60点以上)・C(40点以上)・D(39点以下)とする。		授業終了時に与えられる課題を次回授業までに終わらせておくこと。			
実務経験教員の経歴					

科目名						特別課外活動Ⅱ					
担当教員		大竹 徳至				実務授業の有無		×			
対象学科		情報・ITビジネス大学併修		対象学年		2		開講時期		前期	
必修・選択		必修		授業形態		対面と授業の併用		時間数		30時間	
授業概要、目的、授業の進め方		様々な活動を通して、コミュニケーション能力、自主性、企画力を養う。									
学習目標 (到達目標)		社会に出てから役に立つ様々な力について理解を深める。									
テキスト・教材・参考図書・その他資料		なし									
授業項目、内容						学習方法・準備学習・備考					
1	新入生歓迎会					新入生を歓迎し、後輩を引っ張るリーダーシップについて学ぶ。					
2	大運動会					大人数での活動を通して、協調性を養う。					
3	秋フェス					行事の企画運営を通して企画力を養う。					
4	校内スポーツ大会					行事の企画運営を通して企画力を養う。					
5	研修講演会					各分野の現場で活動する方のお話を伺い、自らの将来について考える。					
6											
7											
8											
9											
10											
11											
12											
13											
14											
15											
評価方法・成績評価基準						準備学習の具体的な内容					
前期:実技試験90%、学習意欲10% 後期:実技試験90%、学習意欲10%						授業終了時に示す課題について、次回授業までに作成しておくこと。					
成績評価基準は、A(80点以上)・B(60点以上)・C(40点以上)・D(39点以下)とする。											
実務経験教員の経歴											

科目名		OA実習Ⅲ			
担当教員	大竹 徳至		実務授業の有無	×	
対象学科	情報・ITビジネス大学併修	対象学年	3	開講時期	後期
必修・選択	必修	授業形態	対面授業	時間数	36時間
授業概要、目的、授業の進め方	Microsoft Office Excelの基礎的操作を学習する。				
学習目標 (到達目標)	MOSスタンダードクラスの合格を目指す				
テキスト・教材・参考 図書・その他資料	MOS対策テキスト				
	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	対策テキスト ワークシートやブックの作成と管理		指定教科書P26～P49		
2	対策テキスト ワークシートやブックの作成と管理		指定教科書P50～P78		
3	対策テキスト ワークシートやブックの作成と管理		指定教科書P79～P95		
4	対策テキスト セルやセル範囲のデータの管理		指定教科書P96～P112		
5	対策テキスト セルやセル範囲のデータの管理		指定教科書P113～P128		
6	対策テキスト セルやセル範囲のデータの管理		指定教科書P129～P149		
7	対策テキスト テーブルの作成		指定教科書P150～P160		
8	対策テキスト テーブルの作成		指定教科書P161～P171		
9	対策テキスト 数式や関数を使用した演算の実行		指定教科書P172～P184		
10	対策テキスト 数式や関数を使用した演算の実行		指定教科書P185～P199		
11	対策テキスト グラフやオブジェクトの作成		指定教科書P200～P213		
12	対策テキスト グラフやオブジェクトの作成		指定教科書P214～P228		
13	対策テキスト グラフやオブジェクトの作成		指定教科書P229～P249		
14	模擬試験				
15	模擬試験				
16	模擬試験				
評価方法・成績評価基準			準備学習の具体的な内容		
模擬試験90%、学習意欲10% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(60点以上)・C(40点以上)・D(39点以下)とする。			授業終了時に示す課題について、次回授業までに作成しておくこと。		
実務経験教員の経歴					

科目名		商業簿記 I			
担当教員	立島 信貴	実務授業の有無	×		
対象学科	情報・ITビジネス大学併修	対象学年	3	開講時期	前期
必修・選択	必修	授業形態	対面授業	時間数	90時間
授業概要、目的、授業の進め方	簿記は、企業の経済活動を記録するための技術である。この授業は企業にとって重要な技術である簿記の基礎知識を習得するものである。具体的には、簿記の考え方や用語、帳簿組織などに関する知識を身に付ける。また、簿記の基本的な技法、商品取引などの会計処理方法を学ぶ。				
学習目標 (到達目標)	・複式簿記の意義・目的について概説できる・複式簿記の原理を利用した仕訳ができる・手形や有価証券の内容を理解しこれらの処理ができる・債権、債務の内容を理解しこれらの処理ができる・決算における仕訳や帳簿システムについてその基本を理解できる・全経簿記検定3級に合格する				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	全経簿記能力検定試験公式テキスト3級、全経簿記能力検定試験公式問題集3級				
	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考			
1	授業の目的と目標、オリエンテーション				
2	身のまわりの簿記	指定教科書P1-1～P1-12			
3	仕訳と転記	指定教科書P2-1～P2-13			
4	決算の手続き(1)	指定教科書P3-1～P3-4			
5	現金(1)と当座預金	指定教科書P4-1～P4-7			
6	商品売買	指定教科書P5-1～P5-18			
7	その他の費用と収益	指定教科書P6-1～P6-3			
8	手形	指定教科書P7-1～P7-5			
9	その他の債権債務	指定教科書P8-1～P8-11			
10	現金(2)現金過不足、小口現金	指定教科書P9-1～P9-8			
11	税金・引出金	指定教科書P10-1～P10-5			
12	有価証券と有形固定資産	指定教科書P11-1～P11-7			
13	株式の発行	指定教科書P12-1～P12-5			
14	決算の手続き(2)	指定教科書P13-1～P13-17			
15	精算表・財務諸表	指定教科書P14-1～P14-19			
16	伝票会計・試算表	指定教科書P15-1～P15-7			
評価方法・成績評価基準		準備学習の具体的な内容			
前期:筆記試験70%、学習意欲30% 後期:検定試験の成績90%、学習意欲10%		・必ず電卓を準備すること ・各回の授業内容に対応する教科書の該当部分を読んで予習すること			
成績評価基準は、A(80点以上)・B(60点以上)・C(40点以上)・D(39点以下)とする。					
実務経験教員の経歴					

科目名		商業簿記Ⅱ			
担当教員	立島 信貴	実務授業の有無	×		
対象学科	情報・ITビジネス大学併修	対象学年	3	開講時期	通年
必修・選択	必修	授業形態	対面授業	時間数	180時間
授業概要、目的、授業の進め方	簿記は、企業の経済活動を記録するための技術である。この授業は企業にとって重要な技術である簿記の基礎知識を習得するものである。具体的には、簿記の考え方や用語、帳簿組織などに関する知識を身に付ける。また、簿記の基本的な技法、商品取引などの会計処理方法を学ぶ。				
学習目標 (到達目標)	・複式簿記の意義・目的について概説できる・複式簿記の原理を利用した仕訳ができる・手形や有価証券の内容を理解しこれらの処理ができる・債権、債務の内容を理解しこれらの処理ができる・決算における仕訳や帳簿システムについてその基本を理解できる・日商簿記検定3級に合格する				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	合格テキスト 日商簿記3級 など				
	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考			
1	授業の目的と目標、オリエンテーション				
2	簿記の基礎・日常の手続き	指定教科書P2～P31			
3	商品売買Ⅰ、Ⅱ	指定教科書P32～P59			
4	現金・預金、小口現金	指定教科書P60～P73			
5	クレジット売掛金、手形取引	指定教科書P74～P79			
6	電子記録債権・債務、様々な帳簿の関係	指定教科書P80～P95			
7	その他の取引Ⅰ、Ⅱ	指定教科書P96～P111			
8	その他の取引Ⅲ、訂正仕訳	指定教科書P112～P123			
9	試算表、決算	指定教科書P124～P137			
10	決算整理Ⅰ、Ⅱ	指定教科書P138～P149			
11	決算整理Ⅲ、Ⅳ	指定教科書P150～P163			
12	決算整理Ⅴ、Ⅵ	指定教科書P164～P197			
13	決算整理後残高試算表、精算表	指定教科書P198～P207			
14	帳簿の締め切り、損益計算書と貸借対照表	指定教科書P208～P225			
15	株式の発行、剰余金の配当と処分	指定教科書P226～P237			
16	税金、証憑と伝票	指定教科書P238～P258			
評価方法・成績評価基準		準備学習の具体的な内容			
前期：筆記試験70%、学習意欲30% 後期：検定試験の成績90%、学習意欲10%		・必ず電卓を準備すること ・各回の授業内容に対応する教科書の該当部分を読んで予習すること			
成績評価基準は、A(80点以上)・B(60点以上)・C(40点以上)・D(39点以下)とする。					
実務経験教員の経歴					

科目名					
リテールマーケティング					
担当教員	福山 泰子		実務授業の有無	×	
対象学科	情報・ITビジネス大学併修	対象学年	3	開講時期	後期
必修・選択	必修	授業形態	対面授業	時間数	132時間
授業概要、目的、授業の進め方	日本商工会議所・全国商工会連合会が実施・運営している販売士検定制度に基づいた授業です。授業を通してリテールマーケティング(販売士)検定試験3級に合格することを第1の目的とする。もう1つはリテールマーケティング(販売士)検定の授業を通して社会人になってから実際に経済活動に直面するにあたっての考え方を養うことを目的とする。				
学習目標(到達目標)	リテールマーケティング(販売士)検定3級に合格することを目標とする。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	(株)キャリアック 販売士ハンドブック(基礎編)リテールマーケティング(販売士)検定試験3級対応				
授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考		
1	授業の目的と目標、自己紹介、オリエンテーション				
2	小売業の種類 流通における小売業の基本～組織形態別小売業の基本		指定教科書P7～P55		
3	小売業の種類 店舗形態別小売業の基本的役割～商業集積の基本		指定教科書P59～P111		
4	マーチャндаイジング 商品の基本～マーチャндаイジングの基本		指定教科書P7～P38		
5	マーチャндаイジング 商品計画の基本～販売計画及び仕入計画などの基本		指定教科書P39～P68		
6	マーチャндаイジング 価格設定の基本～販売管理の基本		指定教科書P71～P109		
7	ストアオペレーション スストアオペレーションの基本～包装技術の基本		指定教科書P7～P66		
8	ストアオペレーション ディスプレイの基本～作業割当の基本		指定教科書P71～P122		
9	マーケティング 小売業のマーケティングの基本～商圏設定と出店の基本		指定教科書P7～P48		
10	マーケティング リージョナルプロモーションの基本～顧客志向型売場づくりの基本		指定教科書P51～P93		
11	販売・経営管理 販売員の役割の基本～計数管理の基本		指定教科書P7～P76		
12	販売・経営管理 店舗管理の基本		指定教科書P81～P103		
評価方法・成績評価基準			準備学習の具体的な内容		
前期:筆記試験70%、学習意欲30% 後期:検定試験の成績90%、学習意欲10% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(60点以上)・C(40点以上)・D(39点以下)とする。			テキストの予習・復習を必ずすること。 毎回検定試験の問題を解いてもらうので、繰り返し復習すること。		
実務経験教員の経歴					

科目名		進級制作Ⅱ			
担当教員	大竹 徳至	実務授業の有無	×		
対象学科	情報・ITビジネス大学併修	対象学年	3	開講時期	後期
必修・選択	必修	授業形態	対面と授業の併用	時間数	115時間
授業概要、目的、授業の進め方	1. 個人もしくは2～4名ほどのチームを組み、さらに高度なアプリやシステムの開発を行う。 2. チーム内での進捗管理などコミュニケーション円滑にとりながら実習を進める。 3. 内定先企業に必要な技術に関連した研究開発を推奨する。				
学習目標 (到達目標)	1. 指示された要件を満たすソフトウェアの開発を目標とする。				
テキスト・教材・参考 図書・その他資料	配付資料				
	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考			
1	企画、設計	チーム内作業			
2	実装	チーム内作業、進捗状況は毎日担当教員に報告			
3	テスト、デバッグ	チーム内作業			
4	発表会	各チーム資料を作成し、プレゼンテーションを行う。			
5					
6					
7					
8					
9					
10					
11					
12					
13					
14					
15					
評価方法・成績評価基準		準備学習の具体的な内容			
後期：成果物評価50%、プレゼン評価40%、学習意欲10% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(60点以上)・C(40点以上)・D(39点以下)とする。		本カリキュラムが始まる前に開発に用いるプログラミング言語について復習課題を設ける。			
実務経験教員の経歴	システムエンジニアとして開発現場に4年間関わっていた				

科目名	サービス接遇				
担当教員	福山 泰子	実務授業の有無	×		
対象学科	情報・ITビジネス大学併修	対象学年	3	開講時期	通年
必修・選択	必修	授業形態	対面授業	時間数	45時間
授業概要、目的、授業の進め方	ビジネスマンとしての判断・行動が適切にできるように、ビジネス社会の基本ルールを学びます。 またサービス業務に対する心構え、対人心理の理解、応対の技術、口のきき方、態度・振舞いなどサービスに対する考え方とおもてなしの心を学びます。				
学習目標 (到達目標)	ビジネス社会の基本ルールを身に付ける。 サービス業務に対する心構え、行動の型を習得する。 サービス接遇検定取得。				
テキスト・教材・参考 図書・その他資料	サービス接遇検定 公式テキスト				
	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	サービス接遇検定3級 サービススタッフの資質		指定教科書P14～P49		
2	サービス接遇検定3級 専門知識		指定教科書P50～P71		
3	サービス接遇検定3級 一般知識		指定教科書P72～P81		
4	サービス接遇検定3級 対人技能		指定教科書P82～P121		
5	サービス接遇検定3級 実務技能		指定教科書P122～P143		
6	模擬試験(3級)				
7	サービス接遇検定2級 サービススタッフの資質		指定教科書P14～P45		
8	サービス接遇検定2級 専門知識		指定教科書P46～P67		
9	サービス接遇検定2級 一般知識		指定教科書P68～P79		
10	サービス接遇検定2級 対人技能		指定教科書P80～P115		
11	サービス接遇検定2級 実務技能		指定教科書P116～P149		
12	模擬試験(2級)				
13	模擬試験(2級)				
評価方法・成績評価基準		準備学習の具体的な内容			
前期:筆記試験50%、検定試験の成績30%、学習意欲20% 後期:筆記試験50%、検定試験の成績30%、学習意欲20% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(60点以上)・C(40点以上)・D(39点以下)とする。		これまでの講義箇所を復習したうえで授業に臨むこと。 検定試験の問題について、繰り返し復習すること。			
実務経験教員の経歴					

科目名					
Androidアプリ開発応用					
担当教員	片所 大輔		実務授業の有無	○	
対象学科	情報・ITビジネス大学併修	対象学年	3	開講時期	通年
必修・選択	必修	授業形態	対面と授業の併用	時間数	150時間
授業概要、目的、授業の進め方	<p>1. Android SDKを使用した、スマートフォンアプリ開発の方法を理解する。</p> <p>2. 基礎講座で学んだ内容を活用しながら、自ら考えたアプリケーションの設計、開発ができる。</p>				
学習目標 (到達目標)	<p>1. 指示された要件を満たすスマートフォンアプリの開発ができる。2.スマートフォン向けアプリを自ら企画・設計し、仕様に応じた開発ができる。3.作成したアプリケーションをマーケットに公開することができる。</p>				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	その他配付資料				
	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	企画、設計		ER図、仕様書の作成		
2	実装		コード打ち込み		
3	テスト、デバッグ		挙動確認		
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					
11					
12					
13					
14					
15					
評価方法・成績評価基準			準備学習の具体的な内容		
<p>後期：筆記試験50%、実技試験40%、学習意欲10%</p> <p>成績評価基準は、A(80点以上)・B(60点以上)・C(40点以上)・D(39点以下)とする。</p>			<p>1年次に学習したJavaプログラムを発展させ、スマートフォン開発の実習を行う。</p> <p>学生たちにとって身近なアプリケーションとなるため、作りたいものを積極的にイメージする姿勢が大切となる。</p>		
実務経験教員の経歴		エンジニアとして開発現場に5年以上関わっていた			

科目名	国家試験対策Ⅱ				
担当教員	桑原 峻介	実務授業の有無	○		
対象学科	情報・ITビジネス大学併修	対象学年	3	開講時期	前期
必修・選択	必修	授業形態	対面と授業の併用	時間数	60時間
授業概要、目的、授業の進め方	基本情報技術者試験をはじめとした情報処理系国家資格の取得を目指した、試験対策授業。 秋期開催の試験に向けた対策授業。 テキスト、過去問、模擬試験等を用いて授業形式で進める。				
学習目標 (到達目標)	目標国家資格の合格(基本情報技術者試験、応用情報技術者試験、情報セキュリティマネジメント 等)				
テキスト・教材・参考 図書・その他資料	インフォテック・サーブ、TAC、その他配付資料				
	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	過去問題集		1問単位で実施、解説を繰り返す。		
2	過去試験		過去に開催された試験を実際の試験時間で実施。		
3	模擬試験		近年の傾向をくみ取った模擬試験を開催。		
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					
11					
12					
13					
14					
15					
評価方法・成績評価基準		準備学習の具体的な内容			
後期：筆記試験90%、学習意欲10% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(60点以上)・C(40点以上)・D(39点以下)とする。		春期試験の結果を参考に週単位で各自への課題を設ける。 対策期間中は放課後の教室を開放し、予習・復習の自主学習を促す。			
実務経験教員の経歴		ゲーム会社で7年間ゲームプログラマーとして勤務。			

科目名		専門講座			
担当教員	大竹 徳至	実務授業の有無	×		
対象学科	情報・ITビジネス大学併修	対象学年	3	開講時期	通年
必修・選択	必修	授業形態	対面と授業の併用	時間数	105時間
授業概要、目的、授業の進め方	併修先の授業内容について学習する。コースごとに学習内容が分かれるが、本講座では共通科目を取り上げる。				
学習目標 (到達目標)	企業経営に必要なマネジメント論、経営学思想について理解する。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	配布資料など				
	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考			
1	マーケティング論	テキスト「Marketing Essence」(産業能率大学刊)			
2	経営管理論	テキスト「基礎からわかる経営管理」(産業能率大学刊)			
3	しなやかな心を作るメンタルマネジメント	テキスト「しなやかな心を作るメンタルマネジメント」(産業能率大学刊)			
4	人材マネジメント論	テキスト「HRM Essence」(産業能率大学刊)			
5					
6					
7					
8					
9					
10					
11					
12					
13					
14					
15					
評価方法・成績評価基準		準備学習の具体的な内容			
後期：課題提出90%、学習意欲10% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(60点以上)・C(40点以上)・D(39点以下)とする。		授業終了時に与えられる課題を次回授業までに終わらせておくこと。			
実務経験教員の経歴					

科目名		商業簿記Ⅲ			
担当教員	立島 信貴	実務授業の有無	×		
対象学科	情報・ITビジネス大学併修	対象学年	4	開講時期	通年
必修・選択	必修	授業形態	対面授業	時間数	178時間
授業概要、目的、授業の進め方	簿記は、企業の経済活動を記録するための技術である。この授業は企業にとって重要な技術である簿記の基礎知識を習得するものである。具体的には、簿記の考え方や用語、帳簿組織などに関する知識を身に付ける。また、簿記の技法、商品取引などの会計処理方法を学ぶ。				
学習目標 (到達目標)	・複式簿記の意義・目的について概説できる・複式簿記の原理を利用した仕訳ができる・手形や有価証券の内容を理解しこれらの処理ができる・債権、債務の内容を理解しこれらの処理ができる・決算における仕訳や帳簿システムについてその基本を理解できる・日商簿記検定2級に合格する				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	合格テキスト 日商簿記2級(商業簿記)など				
		授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考	
1	授業の目的と目標、オリエンテーション				
2	簿記一巡の手続き、財務諸表		指定教科書P2～P29		
3	商品売買、現金及び預金		指定教科書P30～P65		
4	債権・債務、有価証券		指定教科書P66～P103		
5	有形固定資産(1)		指定教科書P104～P115		
6	有形固定資産(2)		指定教科書P116～P125		
7	リース取引、無形固定資産等と研究開発費		指定教科書P126～P139		
8	引当金、外貨換算会計		指定教科書P140～P161		
9	税金、課税所得の算定と税効果会計		指定教科書P162～P183		
10	株式の発行、剰余金の配当と処分		指定教科書P184～P209		
11	決算手続		指定教科書P210～P245		
12	収益の認識基準、本支店会計		指定教科書P246～P273		
13	合併と事業譲渡、連結会計Ⅰ		指定教科書P274～P295		
14	連結会計Ⅱ、Ⅲ		指定教科書P296～P351		
15	連結会計Ⅳ、製造業会計		指定教科書P352～P382		
評価方法・成績評価基準		準備学習の具体的な内容			
前期:筆記試験70%、学習意欲30% 後期:検定試験の成績90%、学習意欲10%		・必ず電卓を準備すること ・各回の授業内容に対応する教科書の該当部分を読んで予習すること			
成績評価基準は、A(80点以上)・B(60点以上)・C(40点以上)・D(39点以下)とする。					
実務経験教員の経歴					

科目名		工業簿記			
担当教員	玉井 和浩	実務授業の有無	○		
対象学科	情報・ITビジネス大学併修	対象学年	4	開講時期	通年
必修・選択	必修	授業形態	対面授業	時間数	161時間
授業概要、目的、授業の進め方	簿記は、企業の経済活動を記録するための技術である。この授業は企業にとって重要な技術である簿記の基礎知識を習得するものである。具体的には、簿記の考え方や用語、帳簿組織などに関する知識を身に付ける。また、簿記の技法、商品取引などの会計処理方法を学ぶ。				
学習目標 (到達目標)	・複式簿記の意義・目的について概説できる・複式簿記の原理を利用した仕訳ができる・手形や有価証券の内容を理解しこれらの処理ができる・債権、債務の内容を理解しこれらの処理ができる・決算における仕訳や帳簿システムについてその基本を理解できる・日商簿記検定2級に合格する				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	合格テキスト 日商簿記2級(工業簿記)など				
授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考			
1	授業の目的と目標、オリエンテーション				
2	工業簿記の基礎、工業簿記の勘定連絡	指定教科書P2～P17			
3	材料費Ⅰ、Ⅱ	指定教科書P18～P35			
4	労務費Ⅰ、Ⅱ	指定教科書P36～P49			
5	経費、個別原価計算Ⅰ	指定教科書P50～P75			
6	個別原価計算Ⅱ、部門別個別原価計算Ⅰ	指定教科書P76～P107			
7	部門別個別原価計算Ⅱ、総合原価計算Ⅰ	指定教科書P108～P137			
8	総合原価計算Ⅱ、Ⅲ	指定教科書P138～P177			
9	総合原価計算Ⅳ、Ⅴ	指定教科書P178～P193			
10	財務諸表、標準原価計算Ⅰ	指定教科書P194～P219			
11	標準原価計算Ⅱ、直接原価計算Ⅰ	指定教科書P220～P247			
12	直接原価計算Ⅱ、本社工場会計	指定教科書P248～P274			
評価方法・成績評価基準		準備学習の具体的な内容			
前期：筆記試験70%、学習意欲30% 後期：検定試験の成績90%、学習意欲10%		・必ず電卓を準備すること ・各回の授業内容に対応する教科書の該当部分を読んで予習すること			
成績評価基準は、A(80点以上)・B(60点以上)・C(40点以上)・D(39点以下)とする。					
実務経験教員の経歴	税理士として事務所を構え、長年活躍。				

科目名						ファイナンシャルプランナー					
担当教員		玉井 和浩			実務授業の有無		○				
対象学科		情報・ITビジネス大学併修		対象学年		4		開講時期		通年	
必修・選択		選択		授業形態		対面授業		時間数		200	
授業概要、目的、授業の進め方		ファイナンシャルプランナー(FP)として、顧客の家族構成、収支の内容、資産・負債などあらゆるデータを集め要望や目標を聞き、現状を分析したうえでそれに基づいてライフプランの目標を達成するために必要に応じて税理士等の協力を得ながら会話的な資産設計を手助けしていく専門家を指す。実生活に役立つFPの基礎知識を習得するとともに、国家資格であるFP技能検定の取得を目指す。									
学習目標(到達目標)		ファイナンシャルプランナーとは何かを説明できる。 ライフイベント表、キャッシュフロー表を用いて基本的な提案書が作成できる。 自分自身のライフプランを立て、それを実現するための総合的な資金計画を立てることができる。									
テキスト・教材・参考図書・その他資料		3級FP技能士 実技 個人・保険顧客資産相続業務 3級FP技能士 学科・実技試験対策テキスト 3級FP技能士 学科精選問題解説集 (全て きんざい出版)									
授業項目、内容						学習方法・準備学習・備考					
1	ライフプランニングと資金計画(学科対策)					指定教科書P1～P43					
2	ライフプランニングと資金計画(実技対策)					指定教科書P1～P31					
3	リスク管理(学科対策)					指定教科書P44～P81					
4	リスク管理 個人分野(実技対策)					指定教科書P32～P61					
5	リスク管理 法人分野(実技対策)					指定教科書P62～P87					
6	金融資産運用(学科対策)					指定教科書P82～P119					
7	金融資産運用(実技対策)					指定教科書P88～P111					
8	タックスプランニング(学科対策)					指定教科書P120～P153					
9	タックスプランニング(実技対策)					指定教科書P112～P139					
10	不動産(学科対策)					指定教科書P154～P181					
11	不動産(実技対策)					指定教科書P140～P165					
12	相続・事業承継(学科対策)					指定教科書P182～P202					
13	相続・事業承継(実技対策)					指定教科書P166～P190					
14	模擬問題										
15	模擬問題										
16	模擬問題										
17	模擬問題										
18	模擬問題										
評価方法・成績評価基準						準備学習の具体的な内容					
前期:筆記試験70%、学習意欲30% 後期:筆記試験70%、学習意欲30% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(60点以上)・C(40点以上)・D(39点以下)とする。						これまでの講義箇所を読んだうえで授業に臨むこと。 指示された課題を確実に提出する。					
実務経験教員の経歴		税理士として事務所を構え、長年活躍。									

科目名						就職実務Ⅳ					
担当教員		大竹 徳至				実務授業の有無		×			
対象学科		情報・ITビジネス大学併修		対象学年		4		開講時期		通年	
必修・選択		必修		授業形態		対面と授業の併用		時間数		40時間	
授業概要、目的、授業の進め方		1. SPI 2. 面接練習 3. グループワーキング実習									
学習目標 (到達目標)		就職先内定を目標とするが、卒業後新社会人として働いていく上での必要知識や常識も身につける事を目標とする。									
テキスト・教材・参考図書・その他資料		講師作成資料									
授業項目、内容						学習方法・準備学習・備考					
1	SPI対策					SPIの内容について復習。					
2	面接練習					個人面接、集団面接、またWEB面接を練習。					
3	グループワーキング実習					テーマを用いてグループワーキングを実施。					
4											
5											
6											
7											
8											
9											
10											
11											
12											
13											
14											
15											
評価方法・成績評価基準						準備学習の具体的な内容					
後期：筆記試験90%、学習意欲10% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(60点以上)・C(40点以上)・D(39点以下)とする。						翌週の講義箇所を読んだうえで授業に臨むこと。 指示された課題を確実に提出する。					
実務経験教員の経歴						システムエンジニアとして開発現場に6年間関わっていた					

科目名		専門講座Ⅱ			
担当教員	大竹 徳至	実務授業の有無	×		
対象学科	情報・ITビジネス大学併修	対象学年	4	開講時期	通年
必修・選択	必修	授業形態	対面と授業の併用	時間数	105時間
授業概要、目的、授業の進め方	併修先の授業内容について学習する。コースごとに学習内容が分かれる。				
学習目標 (到達目標)	企業経営に必要なマネジメント論、経営学思想について理解する。				
テキスト・教材・参考 図書・その他資料	配布資料など				
	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	デジタルマーケティング		テキスト「デジタルマーケティングの教科書」(東洋経済新報社刊)		
2	金融の基本と実践		テキスト「これだけは知っておきたい「金融」の基本と常識」(フォレスト出版刊)		
3	交渉のデザインと実践スキル		テキスト「交渉のデザインと実践スキル」(産業能率大学刊)		
4	チームマネジメント		テキスト「世界最高のチーム」(朝日新聞出版刊)		
5					
6					
7					
8					
9					
10					
11					
12					
13					
14					
15					
評価方法・成績評価基準		準備学習の具体的な内容			
後期：課題提出90%、学習意欲10% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(60点以上)・C(40点以上)・D(39点以下)とする。		授業終了時に与えられる課題を次回授業までに終わらせておくこと。			
実務経験教員の経歴					

科目名		卒業研究			
担当教員	立島 信貴	実務授業の有無	×		
対象学科	情報・ITビジネス大学併修	対象学年	4	開講時期	後期
必修・選択	必修	授業形態	対面授業	時間数	235時間
授業概要、目的、授業の進め方	2年間で学んだことについて(医療に関するテーマ)を決め、自主的に研究に取り組み、PowerPointを用いて研究発表を行う。				
学習目標 (到達目標)	自分の意見・主張を論理的に述べるができる。 社会人として必要な仕事の進め方や取り組み方等を身につける。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	書籍、新聞、インターネット等から資料収集を行い、比較・分析して研究を進める				
	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考			
1	企画、設計	チーム内作業			
2	実装	チーム内作業、進捗状況は毎日担当教員に報告			
3	テスト、デバッグ	チーム内作業			
4	発表会	各チーム資料を作成し、プレゼンテーションを行う。			
5					
6					
7					
8					
9					
10					
評価方法・成績評価基準		準備学習の具体的な内容			
考査60%、課題提出15%、授業態度等25% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(60点以上)・C(40点以上)・D(39点以下)とする。		自主的に研究に取り組み、計画的に作成すること。 提出期限を守ること。			
実務経験教員の経歴					